

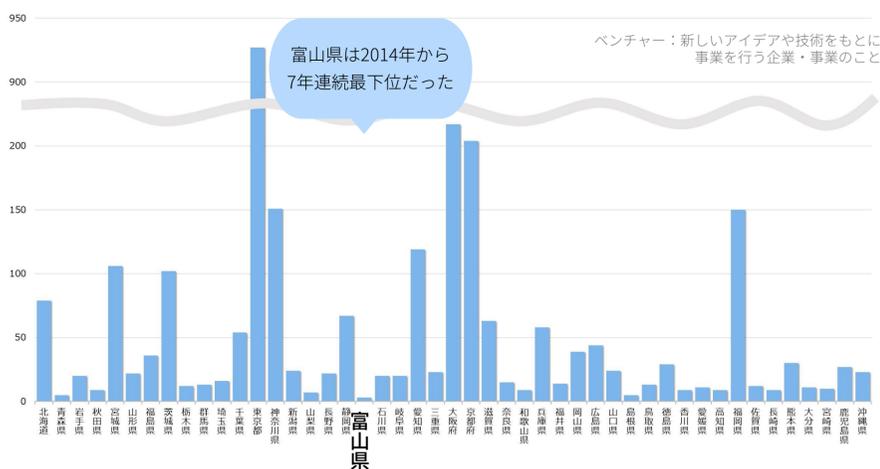
起業について知ってみるイベント What is 起業

富山県立大学公認サークル Engine

背景

富山県の起業数は全国的に低い傾向にあり、特に地方の学生は起業との接点や具体的な情報が不足しがちである。そのため学生は起業を遠い存在だと感じ挑戦へのハードルが高い状況である。しかし富山県には多くの企業や挑戦を支援する環境や学生起業家たちが存在している。

都道府県別大学発ベンチャー数 経済産業省(2020)



目的

- ①富山県立大学の学生に同じ大学で起業している学生がいることを知ってもらい、起業を身近に感じてもらうこと。
- ②他大学からも登壇者を招き起業以外にも様々な挑戦の視野も広げること。
- ③挑戦に前向きになってもらうこと。

Engineとは

アントレプレナーシップを育む団体

アントレプレナーシップ：現状の課題の解決のために立ち向かう能力や態度。0から1を生み出す力。

ゲスト紹介

富山県立大学だけでなく富山大学と新潟大学の学生にも登壇いただいた。当日のイベントは登壇者4人による自己紹介を含む自身の活動紹介でスタートを切った。肩書や所属の発表だけでなく、大切にしていることや驚くような経験談も飛び出し参加者の興味を引いた。



加藤哲朗さん
Tetsuro Kato
県立大学 院2年

大学の研究をもとに株式会社IoTTRYを立ち上げ商品化。当日は自身の起業経験から得た、失敗の乗り越え方や学生が起業するメリットなど、自身の得た見解をもとに体験談を交えながら楽しく紹介していただいた。



後藤 晏伴さん
Haruto Goto
富山大学 4年

学生と企業の交流するバー「裏門 TOYAMA」の店長を務め、毎月多くのイベントの企画や運営も行う。自身の行っている活動や富山県での挑戦を応援してくれる周りの環境について具体的に紹介していただいた。



荒川みのりさん
Minori Arakawa
新潟大学 4年

伊藤龍史准教授のゼミにて日本酒をテーマに商品開発に取り組んだ。ビジネスオーデションなどの経験をもとに、やりたいことが明確でなくとも、興味があることに挑戦することについて紹介していただいた。

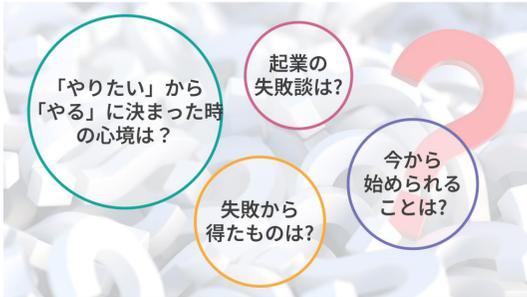


寺田和真さん
Kazuma Terada
県立大学 院2年

大学での研究を元にして様々なサービスを業種を超えて開発してきた。学生起業を支援する(一社)T-Engineの理事でもあり、活動紹介では失敗は存在せず、すべて経験であると自身の考えを紹介していただいた。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは登壇者の自己紹介をもとに参加者からの募集した質問を交えつつお互いの挑戦について深掘りした。富山県と新潟県の起業を比較すると、富山県では特に目的に応じた小さなコミュニティがたくさん存在するという特徴が浮かび上がった。ここでしか聞けない起業経験の裏話が飛び出し、「ぶっちゃけた話を聞いた」「起業に対する考え方が変わりました」と参加者からも感想をいただいた。とりあえず小さな一歩から踏み出してみることや、興味があってもあれば、まずは飛び込むマインドが大切であることは登壇者同士でも共感が多くみられた。最後には物事を大きく始めるのではなく、自分のやりたいことを少しずつ叶えていく過程の中で、あくまで「手段」として起業が存在するという話でパネルディスカッションの幕をとじた。



「ぶっちゃけた話を聞いた」「起業に対する考え方が変わりました」と参加者からも感想をいただいた。とりあえず小さな一歩から踏み出してみることや、興味があってもあれば、まずは飛び込むマインドが大切であることは登壇者同士でも共感が多くみられた。最後には物事を大きく始めるのではなく、自分のやりたいことを少しずつ叶えていく過程の中で、あくまで「手段」として起業が存在するという話でパネルディスカッションの幕をとじた。



交流会

パネルディスカッションの後は登壇者と直接話せる軽食付きのゆるゆる交流会を行った。登壇者に質問したり、

話を聞きに行く人が多くおり、交流会開始と同時に登壇者は参加者に囲まれることになった。また、繋がりや自分のやっていることについてのアドバイスを求める参加者もいた。今回はイベントの交流会という初対面の人とも自由に会話ができる空間であったため、別の大学や分野である富山県立大学の学生との話も盛んに行われていた。近い年代でありながらも、異なる環境に所属している学生との良い交流の機会としても機能した。

まとめ

今回は登壇者から活動内容だけでなく、それまでの過程や得た学びについても紹介していただくことで起業について内側にも注目してもらい、起業を知らない学生も理解を深めてもらうべく本イベントを開催した。また、株式会社Relicで学生の起業支援をしつつ、自身も起業されている小宮さまにも来ていただき、起業支援制度を紹介していただく時間も用意することができた。パネルディスカッションや交流会など、プログラムを通じて、実際に経験した人から聞いて理解を深めることは挑戦のきっかけとして有効だと感じた。また、今回の交流会から他大学と交流をすることで、学生の挑戦の促進につながる良い機会となることがわかった。次に繋がっていく様子も確認することができて嬉しく、イベントを

行った甲斐を感じた。学内にとどまらず、異なる分野や地域で学ぶ学生と交流

をすることはアンケートでも満足度が高かった。今後同じようにイベントを続けて行くと、意欲ある学生の力を発揮する土壌が整ってゆき、学生が力を発揮して活躍する場所ができるだけでなく、地域活性化にも繋がると思う。今後も同じようなイベントを他大学や企業との交流にも着目し、より学生の刺激となるよう企画していく。



県内学生 起業学ぶ
県立大で初のイベント
富山県立大学の学生が、県内各地の起業家や企業と交流するイベント「What is 起業？」が、富山県立大学で初開催された。このイベントは、富山県立大学の学生が、県内各地の起業家や企業と交流する機会を得ることを目的として開催された。イベントには、富山県立大学の学生と、県内各地の起業家や企業代表者が参加し、起業の経験やノウハウについて話し合った。また、起業支援制度についても紹介された。このイベントは、富山県立大学の学生にとって、起業の第一歩を踏み出すための貴重な機会となった。

富山新聞↑
2024.12.17

「イベントを振り返り、サポーターの役割は、今後も継続して取り組んでいきたい」と話した。